

透析患者の下肢切断後の生命予後と背景因子

長崎腎病院

○熊重須沙 青柳真生 山中真樹子 丸山祐子 一ノ瀬浩 佐々木修
澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【目的】

当院透析患者で下肢切断を受けた患者の生命予後と背景因子について解析する。

【対象・方法】

1996年から2016年までに当院で血液透析中に下肢切断を受けた51名（男性37名、女性14名）を対象とし、導入からの切断時期等を解析した。

【結果】

原疾患では糖尿病（DM）：非DM=36：17と糖尿病が多く、透析導入から切断までの期間はDMで10年以内が86%と最も多く、非DMでは20年以上で40%と最も多かった。一方、切断後の生存期間は、2年未満・2-5年未満がそれぞれDMで30%・17%、非DMで86%・0%であった。

【考案】

DM透析患者は早期に下肢切断を経験し、切断後の生存率はゆるやかに低下した。非DM患者は透析歴20年以上での下肢切断が多く、切断後は5年以内に全員が死亡した。DMの有無による全身の動脈硬化の様式の差異の可能性が示唆された。